

鏡山旧錦絵

花見の場から奥庭の場

いび糸り子供歌舞伎保存会

揖斐川町

大名家の大奥を預かる局岩藤は、御家騒動の陰の黒幕。彼女にとつて、大姫の信頼厚い中老尾上は目障りな存在です。ある花見の宴の折、岩藤は、剣術の心得のない尾上に無理やり立会いを迫ります。そこへ召使のお初が主の代役を買って出て、岩藤を打ち負かしてしまいます。

お初に使いを命じて外出させ、自室で密かに自害します。ちようどその頃、お初は忠臣求女と共に、岩藤が弾正と企てた悪事の全てを知ることとなります。あわてて主の下へ戻るとそこには変わり果てた尾上の姿が……。主の無念を晴らし、岩藤の悪事を暴くべく、奥庭で待ち伏せするお初。果たして、仇討ちは遂げられるでしょうか？

戎詣恋釣針 釣女

鳳凰座歌舞伎保存会

下呂市

大名と太郎冠者が登場。大名はこの年まで定まった妻がないので、西宮の戎神社に参詣して妻を申しうけることにしたと語る。太郎冠者もついでに神徳にすがって妻を得たいと申し出る。主従は早速西宮へ向かうが、道中太郎冠者は名所を織り込んだ小唄を唄い、小舞いを舞う。

が祝って舞う。次は太郎冠者の番である。太郎冠者は「釣るよ釣るよ、釣る物は何々」という賑やかな曲に合わせて同じように釣糸を投げると、被衣を被った女が現われるが……。あとは見てのお楽しみ。



壇浦鏖軍記

重忠館の場

可児歌舞伎同好会

可児市

源平屋島の合戦で平家は滅亡、平家の侍大将、悪七兵衛景清は平家の重宝、青山の琵琶を持って行衛知れず。その景清詮議の指揮を取るのには仁義に厚い秩父庄司重忠と邪心の深い岩永左衛門。

どろいた岩永は阿古屋に切りつけると阿古屋の立兵庫が割れる。阿古屋までも手にかけてしまったと思えば岩永はうろたえ逃げ去る。重忠のはからいで阿古屋と人丸は親子の対面を果たすが、人丸ははかなく息絶える。嘆き悲しむ阿古屋と重忠、重忠の妻高ノ井。別れを惜しみながら阿古屋は人丸の遺髪を胸に重忠館の後にする。大歌舞伎では阿古屋の琴責めとして楽器を弾かせて詮議するが、地方歌舞伎では人丸責めとして伝えられている。

恋飛脚大和往来

封印切

高雄歌舞伎保存会

郡上市

有名な近松門左衛門の人形浄瑠璃を歌舞伎化した悲恋ドラマで、実際にあった公金横領事件が題材。主人公の忠兵衛は奈良の豪農から大阪飛脚屋に養子に出た身分。なまじ育ちが裕福なので金銭感覚が甘く忍耐力に欠けます。遊女梅川と相愛の仲となりましたが、身請けの話が起き、男の意地から為替の封印を切ってしまいます。飛脚屋が商用の公金に手をつければ死罪です。その大事を明らかにされた梅川は、どこまでも忠兵衛に従ってゆく決心をして二人は死出の旅に出ます。

前半の忠兵衛は、恋に浮かれた男のおかしみを見せ、中盤から公金に手をつけた男の心理をリアルに描いていくその芸が見どころ。

